

介護福祉士のキャリアアップとは

卒業ゼミ 齋藤洋 グループ

I. 研究目的

近年、高齢者介護の分野でも「キャリアパス」あるいは、「キャリアアップ」という言葉を耳にすることが多くなってきた。「キャリア」とは、「専門的な仕事における一生を通じた職業経歴」のことであり、介護職においても一人ひとりが経験年数や能力に見合ったキャリア選択ができるようになることが望まれている。しかし、介護分野では、終業後 3 年程度で離職してしまうケースが多く、キャリアアップが難しい職業だといえる。

本研究では、アンケート調査を通して、介護職がキャリアアップについてどのように考えているかを調査する。また、介護職からキャリアアップを果たし、様々な現場で活躍している方へのインタビューを通して「キャリアアップに何が必要か」を明らかにすることを試みる。介護福祉の現場で、私たち介護福祉士が目標をもって長期間働いていけるよう、介護福祉士のキャリア形成に関する現状について、明らかにしたい。

II. 研究方法

1). 研究期間

平成 26 年 5 月 1 日～平成 26 年 8 月 30 日

2). 調査方法

別添の通り「介護職のキャリアアップに関するアンケート」を作成し、介護福祉士養成校の学生及び介護現場の職員に依頼（新潟市 H 区の特別養護老人ホームに依頼）した。

また、「キャリアアップに何が必要か」を明らかにするため、キャリアアップを果たし、様々な現場で活躍している 5 名の先輩に対してインタビュー（半構造化面接）を行った。

3). 倫理的配慮

アンケートにおいては、その目的・方法および個人情報流出の恐れがないことを文章で説明した上で実施した。インタビューにおいても、プライバシー保護に関する説明を口頭で行い、同意を得た上で実施した。

4) 分析方法

アンケート結果は、Excel を用いて集計し、自由記

述部分は KJ 法を用いてカテゴリー化を試みた。インタビュー結果については音声データから逐語録を作成し、特に重要だと思われる部分について 100～200 文字で要約を試みた。

III. 結果および考察

キャリアアップを希望する者は、男性よりも女性に多く、特に 40 代においてその割合が最も高かった。「介護職は他の職業に比べて女性の割合が高く、女性が活躍しやすい職場である」こと、このような職場環境が逆に男性職員にとってはマイナス要因となってしまうのではないかと考えた。また、キャリアアップを希望する介護職が多かったものの、具体的なイメージをもっている者は半数にとどまった。これについては「介護職の多くはキャリアアップについての知識や情報をもっていない」「自己研さんの余裕がない」こと等が原因ではないかと考えた。

また、5 名のインタビューからは、「資格」や「研修」も大事であるが、様々な経験や出会いなど、仕事を通して人間的に「成長」することこそが重要であり、それらの成長経験が、結果としてキャリアアップにつながっているのではないかと考えた。

IV. 結論

本研究を通して、「介護職に対するキャリア教育」や「キャリアアップを支援する介護現場のしくみづくり」の重要性が示唆された。

また、介護職が就業してはじめての 3 年間の過ごし方がその後のキャリア形成に大きく影響する可能性があることや、「資格取得」や「研修参加」だけでなく、「外部活動」「利用者やその家族との関わり」など、広く様々な経験を重ね、仕事を通して成長していくことがキャリアアップにつながるということがわかった。